

仙丈ヶ岳～the Queen in windstorm～

【報 告 者】ダニー

【日 時】2016年12月28～31日 【天 候】晴れ

【参 加 者】A屋、I橋、I藤、K田、ダニー

《コースタイム》

28日：20:00 福岡発

29日：9:30 戸台着-10:00 登山開始-16:00 北沢峠-16:30 北沢長衛小屋

30日：4:00 起床-6:00 テント設営-7:00 出発-10:30 下降-12:30 テントサイト

31日：4:00 起床-6:00 下山開始-10:30 下山完了

《 報 告 》

仙丈ヶ岳(3,033m)は南アルプスの北部に位置している、日本に21座ある3,000m峰の一つである。その山容はなだらかで女性的であることから南アルプスの女王の名を冠している。実際に見たその山は純白の雪を戴き、とても美しかった。雪山初心者にとって冬の3,000m峰は一つの憧れであろう。かくして、私はこの山行に乗ることにした。

福岡から長野県伊那市戸台にある登山口までは約12時間の道のりである。一人がおおよそ2時間ずつ運転すれば上手く交代してゆくことができる。12月28日の18時過ぎに自宅前までA屋さんに迎えにきてもらい、1時間半程をかけて各メンバーを迎えに回った。この時点の天気予報で、登頂予定日の風速が約25m/sという予測値が出されていた。それ以前の予報では、比較的穏やかな数値だったのに。良くない傾向だが、予測値が下方に外れることを期待しながら一同は東へ向かった。

登山初日は北沢峠までの行程である。ここで疲れても仕方がない。ゆっくりとした足取りで、峠を目指す。日暮れ前に峠に到着。この日は、明日の山頂への登山のために体力を回復、温存するために小屋に泊まることにした。北沢長衛小屋の宿泊料金は素泊まりで5,200円。ストーブの暖房が効いており、布団と毛布をかぶれば少しも寒くない。荷物を上げてから、休憩場所で自炊をさせてもらう。この日の夕食は餃子鍋で、具の種類が多く量も十分であり、満ち足りた時間を過ごすことが出来た。

29日朝、いよいよ山頂に向けて出発である。北沢峠から2時間程は樹林の中を進む。樹林の中はしっかりとした踏み跡がついており、とても歩きやすい。藪沢大滝の頭を通過し、森林限界を超えた辺りからはいよいよ強風の中を進むこととなった。風になで付けられた稜線は滑らかにクラストしており、ここで転んでしまうと数百メートル滑落してしまうかもしれない。時折やって来る突風の度に耐風姿勢を取りながら一歩

一歩高度を上げてゆく。自分は途中、2回アイゼンを外してしまうというミスをやってしまった。アイゼンの調整が甘かったようだ。2回目に外れた時はそこそこ傾斜が強く、外れたアイゼンか、さもなくば自分を落としてしまわないようにと必死だった。標高2,750m付近、仙丈ヶ岳の前衛峰、小仙丈ヶ岳を目前にして下山することを決めた。登りは行けるとしても、この強風の中を下山するのは危険度が高いとの判断である。

朝設営しておいたテントに到着したあと、自分の下降時の歩行が良くなかったということで、テントサイト脇の斜面を利用して下降のしかたを教えてもらった。上手く登ろうという意識は比較的強いのだが、下山の仕方についての意識が希薄であることに気付かされる。

早く帰ってきてしまったので、午後は長い。雪の中に埋まっていたベンチを掘り出し、それをテーブルにして茶会を催す。昼から少々お酒も飲んでしまう。日中は日差しがあり暖かい。ウイスキーの入った紅茶を飲みながらチョコレートやジャッキーを食べる。さっきまでの強風が信じられないような和やかな時間だった。I藤さんとK田さんは2人で一枚のツェルトを被っている。とても暖かいとのこと。太陽が山の向こう側に入ってしまうと一気に冷え込んで来る。夕食はほうとう鍋、この夜の食材も生野菜や生肉を用いたものでとてもおいしい。

テントを撤収し、朝6時から下山開始。途中、北沢峠近くの「こもれば山荘」に寄る。大きくて快適そうな山小屋である。A屋さんによれば、夏はもっと土産物の種類が多かったとのこと。きれいなトイレを借り、おみやげの絵葉書を買った。

最後に、今回の山行を立案し様々な情報を集めて下さったA屋さん、豪華な食事を用意して下さい下さったI藤さんとK田さん、山行全般にわたってアドバイスをして下さい下さったI橋さんに感謝し、お礼を申し上げます。またこのメンバーで山に行くことができれば望外の喜びです。

